

3 門戸開放

1) 他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」

(A: 他大学・大学院の学生に対する「門戸開放」の状況)

【現状の説明】 政治政策研究科における他大学・大学院の出身者の人数は次のとおりである。

2005年度政治政策学研究科の志願者26名中21名、合格者16名中14名。

2006年度政治政策学研究科の志願者22名中20名、合格者17名中15名。

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程、および後期課程における他大学・大学院の出身者の人数は次のとおりである。

2005年度アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程の志願者6名中4名、合格者6名中4名。

2006年度アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程の志願者5名中2名、合格者5名中2名。

2005年度アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程の志願者8名中1名、合格者7名中1名。

2006年度アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程の志願者7名中6名、合格者5名中4名。

人間福祉学研究科における他大学・大学院の出身者の人数は次のとおりである。

2006年度人間福祉学研究科の志願者15名中7名、合格者14名中6名。

本大学院の理念はカリキュラムや時間割編成に反映されている。働きながらも科目を履修できるように夜間と土曜の講義を多く開講している。フレキシブルな少人数指導制を守り、社会人学生の研究生生活が可能となるよう最大限の便宜を図っている。

また、聖学院大学総合研究所と連携をとりながら、さまざまな公開の研究会・シンポジウム等を開催している。これらには教員や学生のみならず多くの他大学の研究者や学生、社会人等が参加しており、これらの場から本大学院に入学する者も少なくない。特にアメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程の学生にとって、多くの研究者とのかかわりは研究活動への刺激のみならず、人的連帯を結ぶ場として機能している。また、海外の研究者を招聘する「海外研究者講義」は、異文化理解を深めようとする学生には国際的な一流研究者との重要な架け橋になっている。

以上のような指導体制のもと、毎年多くの社会人学生が修士号を取得し、社会で活躍している。また、対外的な学生・研究者に広く門戸を開き、多くの交流を持つことにより、社会に対して高度な研究の提供と研究者の輩出という本大学院の理念は、概ね達成されているものとする。

【点検・評価】 本大学院は、大学卒業者に対して高度な研究と教育を提供するのみならず、専門的知識・能力をもつ職業人の育成と再教育を理念に掲げている。そのため大学新卒者だけでなく、社会で活躍している人材に広く門戸を開き、社会人学生の職業と研究活動の両立が可能な指導体制を目指している。学内進学者に対しては成績に応じて外国語や筆記試験免除等の入試特典があるにもかかわらず、受験者と入学者の大多数を他大学・大学院出身者が占めていることを考えれば、本大学院の学外に対する門戸開放は十分に行われ

第3章 学生の受け入れ

ていると結論できる。

【課題・方策】 今後の課題として挙げられるのは、国際的視野を持つ研究者の輩出である。本大学院は社会人学生が多数を占める。即戦力として社会で活躍する人たちの専門的な要求に答えつつも、より広い視点に立って世界情勢を分析する能力を育成しなければならない。テクニカルな職業人育成ではなく、学問的知識に支えられた専門的職業人を輩出することが一層求められる。また研究者への道を歩もうとする学生に対しても、これまで以上に対外的な研究の場が提供される必要がある。一般的に外部の大学などから本大学院へ入学してくる学生の中には、本学学部出身者に比較して、本学の建学の精神や大学の理念への理解が十分ではない場合もある。表面的な知識ではなく、本学における学問の基礎にあるキリスト教的人間理解から生み出される教育理念を十分理解できる機会を必要に応じて設けていくことが重要である。

4 飛び入学

1) 「飛び入学」実施

(B:「飛び入学」を実施している大学院研究科における、そうした制度の運用の適切性)

【現状の説明】 大学学部において特に優秀な成績を収めた学生が、大学院の政治政策学研究科、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士前期課程および人間福祉学研究科でより研究を深めさせることを目標として「飛び入学制度」を実施している。出願資格は、「大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年目の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者」と定め、他の志願者と同様の試験科目を課し、選抜している。政治政策学研究科において、開設時に本学政治経済学部の4名、次年度に1名の学生が飛び入学制度を利用して入学した。

【点検・評価】 本大学院では「飛び入学」を実施しているが、飛び入学者は学部を中退するという形を取るため、飛び入学生は自分で大学院修了後学位授与機構に申請することになる。学士取得はあくまでも大学院修了が条件となるため、この制度を用いる学生には、慎重な判断が必要なこと、不利益となる場合があることを説明し、十分な理解のもと制度を活用することが求められる。